官佛蘭西
版法律書

民法

第九

東京圖書館
新門 一四南
都一一 一二架
加 四八九九九

CF2
3
07

共十六本

CF2
3
07

明治辛未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯　辻士華撰

仏蘭西民法

法律書

文部省

佛蘭西法律書民法第九

文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

○第五章　義務ノ消散スル事

百三十四條　義務ハ左ノ數件ニ因テ消義務ヲ盡クス事

義務ヲ更改スル事

義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ義務ヲ釋放ス

明治辛未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

仏蘭西法律書民法

文部省

CF2
3
07

東京府書籍館

TOKYO LIBRARY
FOUNDED BY MOMBUSHO

明治九年文部省交付

文部少博士箕作麟祥口譯

第五章　義務ノ消散スル事

百三十四條　義務ハ左ノ數件ニ因テ消

義務ヲ盡クス事

義務ヲ更改スル事

義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ義務ヲ釋放ス

ル事

二箇ノ義務互ニ相殺スル事

權利ト義務ト渾同スル事

義務ノ目的タル物ノ滅盡スル事

契約ヲ廢棄スル事

義務ヲ解除ス可キ未必ノ條件ノ生スル事

但シ此事ハ既ニ前章ニ於テ説明ス

定期ノ時間義務ヲ得ントスルニ因リ

終ニ之ヲ行フニ及ハサルニ至ル事但シ

此事ハ別卷ニ於テ説明ス第二千二百十九條見合セ

○第一款　義務ヲ盡クス事

○第一節　總テ義務ヲ盡クス事

第千二百三十五條　人ヨリ他ニ物件ヲ渡シタル時ハ必ス義務アリテ之ヲ為シタルモノト思料ス可シ若シ義務ナクシテ物件ヲ渡シタル時ハ之ヲ取戻スヿヲ得可シ

自己ノ意ニ隨ヒ法律ニ管セサル義務ヲ盡クシテ物件ヲ人ニ渡シタル時ハ之ヲ取戻スヿヲ得ス

第千二百三十六條　義務ハ本人ニ非スト雖モ

本人ト與ニ之ヲ行フ可キ者又ハ本人ノ保證人等ノ如ク總テ其義務ニ管シタル各人之ヲ盡スヿヲ得可シ

又義務ニ管セサル者ト雖モ義務ヲ行フ可キ者ニ代リ之ヲ行フ時ハ其義務ヲ盡クシタリトス可シ然ルトモ其義務ニ管セサル者自己ノ名義ヲ以テ其義務ヲ行ヒ其義務ヲ得可キ者ノ權ニ代リタル時ハ格別ナリトス

第千二百三十七條　或事ヲ為ス可キ義務ヲ得可キ者其義務ヲ行フ可キ者ノ自カラ之ヲ行フヿヲ欲スル時ハ其義務ニ管セサル者義務ヲ得可キ者ノ意ニ背キ本人ニ代テ之ヲ行フヿヲ得ス

第千二百三十八條　法ニ適シテ義務ヲ盡クサントスルニハ其義務ヲ盡クス者他ニ渡ス可キ物ノ所有者ニシテ且ツ其物ヲ渡ス可キノ權アルヿヲ必要トス

然ルトモ金高又ハ使用シテ次第ニ減損ス可キ物ヲ渡シタル時ハ縱令其所有者ニ非ラサル者又ハ其物ヲ他ニ渡ス可キノ權ナキ者之ヲ渡

シタルト雖モ義務ヲ得可キ者正意ヲ以テ其物ヲ使用シ之ヲ減損セシメタルニ於テハ其所有者其物ヲ取戻サントヲ得ス

第千二百三十九條　義務ヲ盡クス可キ為メ物件ヲ渡スヿハ其義務ヲ得可キ者又ハ其者ノ權ニ代リタル者又ハ裁判所ノ言渡及ヒ法律ニ因リ義務ヲ得可キ者ニ代リ物件ヲ受取ル可キノ權利ヲ有スル者ニ之ヲ為ス可シ

義務ヲ得可キ者ニ代リ物件ヲ受取ル可キ權ヲ有セサル者ニ其物件ヲ渡シタル時ト雖モ

其義務ヲ得可キ者其事ヲ承諾シ又ハ其者其事ニ因リ利益ヲ得タルヿアルニ於テハ其義務ヲ盡クシタリトス

第千二百四十條　義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キノ權利ヲ現ニ有スル者ニ對シ正シク其義務ヲ行フタル時ハ若シ其權利ヲ有スル者後ニ其權利ヲ失フヿアリト雖モ義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ盡クシタルモノトス

第千二百四十一條　義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ其義務ノ目的タル物件ヲ渡シタ

ルト雖モ其義務ヲ得可キ者之ヲ受取ル可キノ權ナキ時ハ其義務ヲ盡クシタリトセス但シ義務ヲ行フ可キ者其渡シタル物件義務ヲ得可キ者ノ利益トナリシ旨ヲ證スル時ハ格別ナリトス

第千二百四十二條　甲者ノ債主乙者ヨリ甲者ニ物件ヲ渡スヿヲ差留メタル時其差留ニ背キテ乙者ヨリ甲者ニ其物件ヲ渡シタルニ於テハ乙者甲者ノ債主ニ對シテ己レノ義務ヲ盡クシタリトス可カラス甲者ノ債主ハ乙者ヲシテ再ヒ其物件ヲ己レニ渡サレムヿノ訴ヲ為スヿヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ乙者甲者ニ對シ其物件取戻ノ訴ヲ為スノ權アリ

第千二百四十三條　義務ヲ行フ可キ者其渡ス可キ物件ニ代ヘテ他ノ物件ヲ渡サントスルト雖モ其義務ヲ得可キ者必スシモ其代品ヲ受取ルニ及ハス但シ其代品ノ價本品ノ價ニ均シク又ハ更ニ多キ時ト雖モ又同一ナリトス

第千二百四十四條　縱令義務ヲ分ツ可キ時ト

雖モ之ヲ行フ可キ者ハ之ヲ得可キ者ヲシテ其渡ス可キ物ノ一部分ノミヲ強テ受取ラシムルヿヲ得ス

然モ裁判役ハ義務ヲ行フ可キ者ノ様子ヲ考ヘ其義務ノ目的タル物件渡方ニ付キ相當ノ猶豫ノ期限ヲ許ルシ義務ノ一部ヲ盡クシ他ノ一部ヲ盡クスヿヲ暫ク猶豫スルヲ云フ且ツ既ニ其事ニ付キ訴ノ起リタル時ハ暫ク其訴ヲ中止セシメ其時間ハ諸事其儘ニ差置ク可キヿヲ言渡スヲ得可シ但シ裁判役此權ヲ行フニ付キテハ極メテ注意ヲ為スヿヲ必要トス

第千二百四十五條　預メ定メ置キタル物件ヲ渡ス可キ義務アル者ハ其物件ヲ渡ス可キ時ノ模様ノ儘之ヲ渡シテ其義務ヲ盡クシタリトス可シ但シ其者自己ノ過失又ハ其物件ヲ附托シタル人ノ過失ニ因テ其物ノ毀損セシ時又ハ此等ノ者ノ過失ニ非スト雖モ義務ヲ得可キ者ヨリ之ヲ渡ス可キノ催促ヲ受ケ尚之ヲ渡サヽル中ニ其物ノ毀損セシ時ハ格別ナリトス

第千二百四十六條　種類ノミノ定リシ物ヲ渡ス可キ義務アル者其義務ヲ盡クサントスルニハ其種類中ノ最良ノ物ヲ渡スニ及ハス又最惡ノ物ヲ渡スヿヲ得ス

第千二百四十七條　物件ノ引渡ハ契約ヲ以テ預定セシ地ニ於テ之ヲ為ス可シ若シ其地ヲ預定セサル時其渡ス可キ物ノ預メ定マリタルニ於テハ其義務ヲ契約シタル時其物ノ在リシ地ニ於テ之ヲ為ス可シ

此二箇ノ場合ノ外ハ總テ義務ヲ行フ可キ者ノ住所ニ於テ引渡ヲ為ス可シ

第千二百四十八條　物件ヲ引渡ス費用ハ義務ヲ行フ可キ者之ヲ擔當ス可シ

○第二節　義務ヲ盡クス可キ者ニ代テ之ヲ盡シタル人義務ヲ得可キ者ノ權ニ代ル事

第千二百四十九條　義務ヲ行フ可キ者ニ代リ義務ヲ得可キ者ニ其義務ヲ盡クシタル時ハ其義務ヲ盡クシタル者義務ヲ得可キ者ノ權ニ代ル事ヲ得可シ但シ此事ハ契約ヨリ之ヲ

生シ或ハ法律上ニテ之ヲ生ス

第千二百五十條　前條ニ記シタル事ハ左ノ二箇ノ場合ニ於テハ契約ヨリ之ヲ生ス可シ

第一　義務ヲ得可キ甲者丙者ヨリ義務ヲ得ルニ因リ義務ヲ行フ可キ乙者ヨリ之ヲ得可キ自己ノ權及ヒ乙者ニ對シテ訴訟ヲ為スノ權、乙者ニ對シ他ノ義務ヲ得可キ者ヨリ先キニ其義務ヲ得可キノ權、乙者ニ對シ不動産ヲ「イポテーク」トシテ得ルノ權ヲ丙者ニ移シタル時「但シ此代

權ノ事ハ丙者乙者ニ代テ義務ヲ盡クシタル時別段之ヲ契約書ニ附記シ置ク可シ

第二　義務ヲ行フ可キ乙者甲者ニ對シ其義務ヲ盡クス可キ為メ丙者ヨリ金高ヲ借受ケ丙者ヲシテ其義務ヲ得可キ甲者ノ權ニ代ラシムル時○此代權ノ事ヲ法ニ適シタルモノト為サントスルニハ乙者丙者ヨリ金高ヲ借受クル証書及ヒ甲者ニ其義務ヲ盡クシタル證書ヲ「ノテイ

ル」ノ面前ニテ記シ其金高借受ノ證書ニ其金高ハ義務ヲ盡クス可キ為メ借受グタル旨ヲ附記シ且甲者ニ其義務ヲ盡クシタル證書ニ別段其借入レタル金高ヲ以テ其義務ヲ盡クシタル旨ヲ附記ス可シ但シ此代權ノ事ハ別段義務ヲ得可キ者ノ承諾ナクシテ之ヲ為スヿヲ得可シ

第千二百五十一條　前ニ記シタル代權ノ事ハ左ノ四箇ノ場合ニ於テハ法律上ニテ生ス可シ

第一　乙者ヨリ義務ヲ得可キ權アル甲者「イポテーク」ノ權又ハ「プリヴィレージ」ノ權ヲ有スル地ノ債主ニ乙者ニ代リテ義務ヲ盡シタル時

第二　義務ヲ行フ可キ乙者ヨリ不動産ヲ買入レタル甲者乙者ヨリ其不動産ヲ「イポテーク」トシテ得可キ債主ニ其買入代金ヲ以テ償還ヲ為シタル時

第三　甲者乙者ト共ニ義務ヲ擔當シ又ハ乙者ノ為メニ義務ヲ擔當シテ其義務ヲ

盡シタル時

第四　遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權アル相續人其遺物財産ニ付テノ負債ヲ自己ノ財産中ヨリ償フタル時

第千二百五十二條　前數條ニ循ヒ丙者乙者ニ代リテ甲者ニ對シ義務ヲ盡クシタルニ因リ甲者ノ權ニ代リタル時ハ丙者乙者ト其保證人トニ對シテ償還ヲ要ムルノ權ヲ得可シ但シ丙者乙者ニ代リ甲者ニ對シテ其義務ノ一分ノミヲ盡クシタル時ハ甲者其殘リタル義務ヲ全ク乙者ヨリ得タル後ニ非レハ丙者乙者又ハ其保證人ヨリ償還ヲ得ントヲ要ムルヲ得ス

○第三節　數箇ノ義務中ノ一ヲ盡クスニ充テ用フル事

第千二百五十三條　一人ニ對シ數箇ノ義務ヲ負フタル者ハ其義務ヲ盡クス時ニ當リ其數箇ノ義務中何レノ義務ヲ盡クス可キヤヲ述フルノ權アリ

第千二百五十四條　息銀ヲ生スル債ヲ負フタル者其義務ノ一部ヲ盡クス時ハ先ツ息銀ヲ償フニ之ヲ充テ用ヒ然ル後主タル債ヲ償フニ充テ用フ可シ但シ之ニ反シタル償方ヲ為サントスルニハ義務ヲ得可キ者ノ承諾ヲ得ルヲ必要トス○又義務ヲ行フ可キ者主タル債ト其息銀トヲ償還スル名義ニテ義務ヲ盡クシタルト雖モ其償フタル高主タル債ト其息銀トヲ合セシ高ニ滿タサル時ハ先ツ息銀ノ償ニ之ヲ充テ用ヒ然ル後主タル債ノ償ニ充テ用フ可シ

第千二百五十五條　數箇ノ義務ヲ負フ者其義務ヲ盡クシタル時之ヲ得シ者其數箇中何ノ義務ヲ盡クスニ充テ用フルヤヲ定メ其義務ヲ盡クシタル者其旨ヲ記セシ受取書ヲ得タルニ於テハ更ニ他ノ義務ヲ盡クスニ充テ用フルヲ得ス但シ其義務ヲ得タル者詐偽ヲ行ヒ又ハ脅迫ヲ為シタル時ハ格別ナリトス

第千二百五十六條　義務ヲ得ル者ノ受取書ニ數箇中何レノ義務ヲ盡クスニ充テ用フルヤ

ヲ別段定メサル時ハ義務ヲ行フ者其盡クス可キ期限ニ至リシ數箇ノ義務中ニテ最モ先キニ盡サントスル義務ヲ盡クスニ充テ用フ可シ又其義務中ニテ未タ盡クス可キ期限ニ至ラサルモノアル時ハ如何ナル景狀アリト雖モ既ニ盡クス可キ期限ニ至リシ義務ヲ盡クスニ充テ用フ可シ○若シ又數箇ノ義務ノ種類皆等シキ時ハ其義務中ノ最舊ノモノヲ盡クスニ充テ用フ可シ又其數箇ノ義務ノ種類皆等シク且新舊ノ區別ナキ時ハ平等ニ數箇ノ義務ヲ盡クスニ充テ用フ可シ

○第四節　義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ盡クサント提供スル事及ヒ其負フタル諸件ヲ官署ニ預クル事

第千二百五十七條　義務ヲ得可キ者其得可キ物件ヲ受取ルヿヲ承諾セサル時ハ義務ヲ行フヿヲ可キ者其渡ス可キ物又ハ金高ヲ其義務ヲ得可キ者ニ現ニ提供シ若シ其者猶之ヲ得ルヿヲ承諾セサル時ハ其物又ハ金高ヲ預リ役

所ニ預クヘシ

義務ヲ行フ可キ者其渡ス可キ物又ハ金高ヲ既ニ提供シ其後之ヲ預リ役所ニ預ケタル時ハ其義務ノ釋放ヲ受ケ其提供及ヒ附託ノ法ニ適シタル時ハ義務ヲ盡クシタルニ均シキ効アリトス但シ義務ヲ行フ可キ者ノ役所ニ預ケタル物又ハ金高ハ義務ヲ得可キ者之ヲ己レニ引受ク可シ

第千二百五十八條　義務ヲ行フ可キ者之ヲ得可キ者ニ對シ負フタル物件又ハ金高ヲ法ニ適シテ提供スルニハ左ノ七件ヲ必用トス

第一　自カラ物件又ハ金高ヲ受取ル可キノ權ヲ有スル者又ハ其者ニ代リテ之ヲ受取ル可キノ權ヲ有スル者ニ提供ヲ為ス事

第二　義務ヲ盡クスヿヲ得可キ者ヨリ其提供ヲ為ス事

第三　義務ヲ行フ可キ者ノ渡ス可キ物件又ハ金高及ヒ其息銀且既ニ筭定シタル諸費用高并ニ未タ筭定セサル諸費用ノ

見積高ヲ提供スル事但シ未タ筭定セサル費用ノ見積高不足ナル時ハ後ニ之ヲ補足ス可シ

第四　義務ヲ得可キ者ノ為メ其義務ヲ得可キ期限ヲ約定シタル時ハ其期限ニ至リシ事

第五　嘗テ義務ヲ契約セシ時預定シタル未必ノ條件ノ現ニ生シタル事

第六　義務ヲ行フ可キ為メ預メ契約シタル地ニ於テ提供ヲ為ス事又其義務ヲ行フ可キ地ニ付キ別段契約ナキ時ハ其義務ヲ得可キ者ノ面前ニ於テ提供ヲ為シ又ハ其者ノ住所或ハ契約取行ノ為メ特ニ擇ミタル住所ニ於テ提供ヲ為ス事

第七　裁判所ノ官吏門監ヲ云ニ託シテ其提供ヲ為ス事

第千二百五十九條　義務ヲ盡クス可キ者其渡ス可キ物件又ハ金高ヲ法ニ適シテ預リ役所ニ預ケント為スニハ別ニ裁判役ノ允許ヲ得ルニ及ハス唯左ノ四件ノミヲ以テ足レリト

ス

第一　其物件又ハ金高ヲ預リ役所ニ預ク
ル前之ヲ預ク可キ日時及ヒ其場所ヲ記
シタル呼出狀（金高又ハ物件ヲ預クル時立會ヲ可キノ呼出狀）ヲ
其義務ヲ得可キ者ニ送達スル事

第二　義務ヲ盡クス可キ者其提供セシ物
件又ハ金高ト之ヲ預クル日ニ至ル迄ノ
息銀トヲ法律上ニ定メタル役所ニ預ケ
自カラ之ヲ所有スルノ權ヲ拋棄スル事

第三　裁判所ノ官吏ノ記シタル調書ニ義

務ヲ行フ可キ者ノ提供セシ物件又ハ金
高ノ種類、義務ヲ得可キ者其物件又ハ金
高ヲ受取ルコトヲ承諾セサル旨、義務ヲ行
フ可キ者ヨリ物件又ハ金高ヲ預クル時
之ヲ得可キ者ノ立會ヲ為サヽル旨、義務
ヲ行フ可キ者正シク之ヲ役所ニ預ケタ
ル旨ヲ記スル事

第四　義務ヲ得可キ者同上ノ立會ヲ為サ
サル時ハ義務ヲ行フ可キ者ノ提供セシ
物件又ハ金高ヲ正シク役所ニ預ケタル

吉ノ調書ト其物件又ハ金高ヲ引取ル可キ招書トヲ其義務ヲ得可キ者ニ送達スル事

第千二百六十條　義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ渡ス可キ物件又ハ金高ヲ提供スル事及ヒ之ヲ預リ役所ニ預クル事皆法ニ適シタル時ハ義務ヲ得可キ者其費用ヲ擔當ス可シ

第千二百六十一條　義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ渡ス可キ物又ハ金高ヲ役所ニ預ケタル後義務ヲ得可キ者未タ之ヲ受取ラサル時間ハ其義務ヲ行フ可キ者之ヲ取戻スヿヲ得可シ但シ其義務ヲ行フ可キ者之ヲ取リ戻シタル時ハ其者ト連帶シテ義務ヲ行フ可キ者又ハ其保證人其義務ヲ免ルヽヿヲ得ス

第千二百六十二條　義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ渡ス可キ物件ヲ提供シ且之ヲ役所ニ預クルヿ法ニ適シタルノ確定ノ審判ヲ得タル時ハ縱令義務ヲ得可キ者ノ承諾アリト雖モ其義務ヲ行フ可キ者其預ケタル物件

又ハ金高ヲ取リ戻シ連帯シテ義務ヲ行フ可キ者又ハ其保證人ノ損害ヲ為スヿヲ得ス

第千二百六十三條　義務ヲ行フ可キ者其渡ス可キ物件又ハ金高ヲ役所ニ預ケ其預ケタル「法」ニ適シタル確定ノ裁判アリシ後ニ其義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ其物件又ハ金高ヲ取戻ス可キヿヲ承諾シタル時ハ其義務ヲ他ノ債主ヨリ先キニ得可キノ權又ハ不動産ヲ「イポテーク」トシテ得可キノ權ヲ行フヿヲ得ス但シ其義務ヲ得可キ者其義務ヲ行フ可キ者ノ役所ニ預ケタル物件又ハ金高ヲ取戻ス事ヲ承諾セシ證書ニ更ニ改メテ「イポテーク」ノ權ヲ生ス可キ旨ヲ附記スルニ付キ相當ノ法式ヲ行ヒタル時ハ其法式ヲ為シタル日ヨリ其「イポテーク」ノ權ヲ復スルヿヲ得可シ

第千二百六十四條　義務ヲ行フ可キ者之ヲ得可キ者ニ引渡ス可キ物件預メ定リシモノニシテ且其物件所在ノ地ニテ之ヲ引渡ス可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者ヨリ義務ヲ得可キ

者又ハ其住所又ハ契約ヲ以テ別段擇ミタル住所ニ書面ヲ送リテ其物件ヲ搬運スヽ可キヿヲ要ス可シ○義務ヲ行フ可キ者此事ヲ要メタル後義務ヲ得可キ者猶ホ其物件ヲ搬運セサル時義務ヲ行フ可キ者ノ為メ其物件所在ノ場所ノ必要ナルヿアルニ於テハ其義務ヲ行フ可キ者其物件ヲ更ニ他ノ場所ニ預ク可キノ允許ヲ裁判所ヨリ受クルヿヲ得可シ

○第五節　義務ヲ行フ可キ者其財産ヲ拋棄スル事

第千二百六十五條　財産ノ拋棄トハ義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ盡クスヿ能ハサル時已レノ所有スル諸般ノ財産ヲ盡ク義務ヲ得可キ者ニ任カスル事ヲ云フ

第千二百六十六條　財産ノ拋棄ハ隨意ノモノアリ又ハ裁判所ノ言渡ニ因テ為スモノアリ

第千二百六十七條　隨意ノ財産ノ拋棄トハ義務ヲ得可キ者隨意ニ之ヲ承諾シ且其義務ヲ得可キ者ト之ヲ行フ可キ者トノ間ニ嘗テ結ヒ置キタル契約ヨリ生ス可キ所ノ外更ニ他

ノ効ヲ生セサル拋棄ヲ云フ

第千二百六十八條　裁判所ノ言渡ニ因テ為シタル財産拋棄トハ正實ニシテ且不幸ナル義務ヲ行フ可キ者ヲシテ其身體ノ自由ヲ保タシムル為メ如何ナル契約アルヲ問ハス裁判所ノ言渡ニ因リ其所有スル諸般ノ財産ヲ盡ク義務ヲ得可キ者ニ任カスル拋棄ヲ云フ

第千二百六十九條　裁判所ノ言渡ニ因リ財産拋棄ヲ為スト雖ヒ義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ拋棄シタル財産ヲ所有スルノ權ヲ

得ルヿナク唯其財産ヲ賣拂フ可キノ權ト其賣拂ニ至ル迄ノ時間其財産ヨリ生シタル入額ヲ所得ト為スノ權トヲ得可シ

第千二百七十條　義務ヲ得可キ者ハ法則上ニテ別段定メタル場合ニ非レハ義務ヲ行フ可キ者裁判所ノ言渡ニ因リ其財産拋棄ヲ為スヲ拒ムヿヲ得ス

義務ヲ行フ可キ者其財産拋棄ヲ為ス時ハ禁錮ヲ受クルヿヲ免カルヿ可シ

又義務ヲ行フ可キ者其財産ノ拋棄ヲ為スト

雖モ其拋棄シタル財産ノ價ニ至ル迄ノ外其義務ノ釋放ヲ得ス但シ拋棄シタル財産ノ價其義務ヲ全ク盡クスニ足ラサル時義務ヲ行フ可キ者後ニ他ノ財産ヲ所得ト為スヿアルニ於テハ亦其財産ヲ拋棄シテ其義務ヲ全ク盡クスニ至リ初テ其拋棄ヲ止ム可シ

○第二款　義務ノ更改スル事

第千二百七十一條　義務ノ更改ハ左ノ三箇ノ法方ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第一　義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ對シ從来ノ義務ニ代ヘ更ニ新タナル義務ヲ契約シ從来ノ義務ノ消散シタル事

第二　從来義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ヨリ釋放ヲ受ケ新タニ義務ヲ行フ可キ者之ニ代リタル事

第三　新タニ結ヒタル契約ニ因リ新タニ義務ヲ得可キ者從来義務ヲ得可キ者ニ代リタルニ付キ其義務ヲ行フ可キ者從来義務ヲ得可キ者ヨリ其義務ノ釋放ヲ

得タル時

第千二百七十二條　義務ノ更改ハ契約ヲ為スヲ得可キ數人ノ間ニ非レハ之ヲ為スヿヲ得ス

第千二百七十三條　義務ノ更改ハ思料ノミヲ以テ為ス可カラス其更改ヲ為ス可キ意アルヿヲ證書ヲ以テ分明ニ了知シ得可キヲ必要トス

第千二百七十四條　新タニ義務ヲ行フ可キ者從来義務ヲ行フ可キ者ニ代リ義務ヲ更改スルヿハ從来義務ヲ行フ可キ者ノ立會ナクシテ之ヲ為スヿヲ得可シ

第千二百七十五條　從来義務ヲ行フ可キ者自己ニ代リテ新タニ義務ヲ行フ可キ者ヲ定メシ旨ヲ義務ヲ得可キ者ニ述フルト雖モ其義務ヲ得可キ者從来義務ヲ行フ可キ者ヲ釋放ス可キヿヲ別段述ヘタル時ニ非レハ義務ノ更改ヲ為スヿヲ得ス

第千二百七十六條　義務ヲ得可キ者從来義務ヲ行フ可キ者ヲ釋放シタル時ハ新タニ義務

ヲ行フ可キ者其義務ヲ行フヿ能ハサルニ至ルヿアリト雖モ從來義務ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ為スヿヲ得ス但シ此場合ニ於テ從來義務ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ為スヲ得可キヿヲ別段證書ニ記シタル時又ハ新タニ義務ヲ行フ可キ者從來義務ヲ行フ可キ者ニ代リシ頃既ニ公ケニ家資分散ヲ為シ又ハ既ニ其頃ヨリ其家産ヲ以テ其義務ヲ全ク盡クスル足ラサリシ時ハ格別トリトス

第千二百七十七條　義務ヲ行フ可キ者自己ニ代リテ義務ヲ行フ可キ者ヲ指示シタルノミニテハ義務ノ更改スルヿナカル可シ

又義務ヲ得可キ者自己ニ代リテ義務ヲ得可キ者ヲ指示シタルノミニテハ義務ノ更改スルヿナカル可シ

第千二百七十八條　從來ノ義務ニ付テノ債主ノ特權又ハヒポテーク〻ノ權ハ更改シタル義務ニ之ヲ移ス可カラス但シ義務ヲ得可キ者別段其事ヲ定キ置キタル時ハ格別ナリトス

第千二百七十九條　新タニ義務ヲ行フ可キ者

從来義務ヲ行フ可キ者ニ代リタル時ハ從来ノ義務ニ付テノ債主ノ特權又ハ「イポテーク」ノ權ヲ新タニ義務ヲ行フ可キ者ノ財産ニ移スヿヲ得ス

第千二百八十條　義務ヲ得可キ者ト連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ト義務ノ更改シタル時ハ從来ノ義務ニ付テノ債主ノ特權又ハ「イポテーク」ノ權ヲ新タナル義務ヲ行フ可キ一人ノ財産ノミニ移スヿヲ得可シ

第千二百八十一條　義務ヲ得可キ者ト連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ト義務ノ更改シタル時ハ連帶シテ義務ヲ行フ可キ其他ノ者其義務ノ釋放ヲ受ク可シ

義務ヲ得可キ者ト主タル義務ヲ行フ可キ者ト義務ノ更改シタル時ハ其保證人己ノ義務ノ釋放ヲ受ク可シ

然ルニ義務ヲ得可キ者首項ノ場合ニ於テ連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人皆其義務更改ノ事ヲ承諾ス可キヿヲ要メ又第二項ノ場合ニ於テ其保證人ノ之ヲ承諾ス可キヿヲ要メタル

時其連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人又ハ保證人其承諾ヲ為サヽルニ於テハ從来ノ義務猶繼續シタルモノト為ス可シ

○第三款　義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ其義務ヲ釋放スル事

第千二百八十二條　雙方ノ姓名ヲ手署シタル私ノ證書ノ正本ヲ義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ義務ヲ行フ可キ者ニ渡シタル時ハ其義務ヲ釋放シタルノ證アリトス

第千二百八十三條　義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ公正ノ證書ノ副本（第八百二十條見合）ヲ義務ヲ行フ可キ者ニ渡シタル時ハ義務ヲ釋放シ又ハ義務ヲ盡シタルト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ナリトス

第千二百八十四條　義務ヲ得可キ者連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ニ私ノ證書ノ正本又ハ公ノ證書ノ副本ヲ渡シタル時ハ連帶シタル他ノ數人ノ為メ亦其義務ヲ釋放シクリトス可シ

第千二百八十五條　義務ヲ得可キ者連帶シテ

義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ノ為メ契約シテ其義務ヲ釋放シタル時ハ連帶シタル他ノ數人モ亦其義務ノ釋放ヲ受ク可シ但シ義務ヲ得可キ者連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ヲ釋放スト雖ヒ其他ノ者ヲ釋放セサル旨ヲ別段定メシ時ハ格別ナリース但シ此場合ニ於テハ其義務ヲ得可キ者義務ヲ行フ可キ數人中ニテ其釋放シタル一人ノ部分ヲ減シ其義務ヲ得ント要ム可シ

第千二百八十六條　質トシテ取リタル物件ヲ還シタルト雖ヒ其義務ヲ釋放シタルト思料ス可カラス

第千二百八十七條　義務ヲ得可キ者主タル義務ヲ行フ可キ者ノ為メ契約シテ其義務ヲ釋放シタル時ハ其保證人モ亦釋放ヲ受ク可シ又保證人ヲ釋放スト雖ヒ之ニ因リ主タル義務ヲ行フ可キ者ヲ釋放ス可カラス

又保證人中ノ一人ヲ釋放スト雖ヒ他ノ保證人ヲ釋放ス可カラス

第千二百八十八條　義務ヲ得可キ者義務ノ保

證人ヨリ其義務ノ釋放ヲ得可キカ為メ出シタル所ノ物件又ハ金高ヲ受取リタル時ハ之ヲ義務ノ償ノ為ノ充テ用ヒタルモノト為シ主タル義務ヲ行フ可キ者並ニ他ノ保證人其保證人ノ出シタル物件又ハ金高ニ至ル迄其義務ノ釋放ヲ受ク可シ

○第四款　二箇ノ義務互ニ相殺スル事

第千二百八十九條　相互ニ義務ヲ行フ可キ者二人アル時ハ後條ニ記スル場合ト方法トニ循ヒ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可シ

第千二百九十條　互ニ義務ヲ行フ可キ雙方ノ者共ニ知ルヿナシト雖ヒ法律上ニテ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺スルヿアリ但シ此場合ニ於テハ其二箇ノ義務ノ生シタル時其高ノ相當ルニ至ル迄互ニ之ヲ相殺ス可シ

第千二百九十一條　二箇ノ義務互ニ相殺スルヿハ金高又ハ度量スルヿヲ得可キ物件ノミニ付キ之ヲ為スヿヲ得可シ但シ是カ為メ其金高又ハ度量ス可キ物件ノ高確定シ且既ニ

其渡シ時限ノ至リシヿヲ必要トス

又人ヨリ得可キ穀類又ハ飲食料ノ價時價目錄ニ因リ定リタル時ハ既ニ渡シ時ニ至リシ金高ト互ニ相殺スルヿヲ得可シ

第千二百九十二條　裁判所ヨリ一方ノ者ニ義務ヲ行フ可キ期限ノ猶豫ヲ許ルレタリト雖モ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺スルノ妨ケトナルヿナカル可シ

第千二百九十三條　二箇ノ義務ハ其生シタル原由ノ如何ナルヲ問ハス互ニ相殺スルヲ得

可シ然ル左ノ三箇ノ場合ハ格別ナリトス

第一　一方ノ者己レニ屬シタル物ヲ横ニ奪取ラレ他ノ一方ニ其物ノ取戻ヲ求ムル時

第二　一方ノ者他ノ一方ニ預ケタル物件又ハ他ノ一方ノ使用ス可キ為メ貸與ヘタル物件ノ取戻ヲ求ムル時

第三　一方ノ者他ノ一方ニ渡ス可キ養料ヲ差押ノ可カラサル時（訴訟法第五百八十一條見合）

第千二百九十四條　義務ヲ行フ可キ者ノ保證

人ハ義務ヲ行フ可キ者ト義務ヲ得可キ者トノ間ニ二箇ノ義務互ニ相殺シタルヿヲ述ヘ己レノ保證ノ義務ヲ免ルヽノ訴ヲ為シ得可シ

然ルニ義務ヲ行フ可キ者ハ義務ヲ得可キ者ヨリ保證人ニ對シテ行フ可キ義務アルヿヲ述ヘ其義務ト自己ノ義務トヲ互ニ相殺ス可キノ訴ヲ為スヿヲ得ス

又連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ハ義務ヲ得可キ者ヨリ他ノ一人ニ對シ行フ可キ義務アルヿヲ述ヘ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キノ訴ヲ為スヿヲ得ス

第千二百九十五條　義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ノ他人ニ其權ヲ移シタルヿヲ承諾シ別段二箇ノ義務互ニ相殺ス可キヿヲ定メサル時ハ縱令其承諾ヲ為サヽル以前ニ從來義務ヲ得可キ者ニ對シ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求メヲ為シ得可キ場合ト雖ドモ既ニ其承諾ノ後ニ至リテハ其義務ヲ得可キ權ヲ讓リ受ケシ者ニ對シ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求ヲ為スヿヲ得ス

又義務ヲ得可キ者他人ニ其權ヲ讓リ義務ヲ行フ可キ者未タ之ヲ承諾セス唯其由ノ告知ヲ得タル時ハ其告知ノ後ニ生シタル義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求ヲ為スヿヲ得ス

第千二百九十六條　二箇ノ義務ヲ同一ノ場所ニ於テ盡クス可カラサル時ハ一方ノ者運送ノ費用ヲ他ノ一方ニ償フタル上ニ非レハ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求メヲ為スヿヲ得ス

第千二百九十七條　一人ニテ盡クス可キ數箇ノ義務ヲ負ヒ之ヲ他人ヨリ得可キ一箇ノ義務ト互ニ相殺セントスルニハ第千二百五十六條ニ記シタル規則ニ循フ可シ

第千二百九十八條　二箇ノ義務ヲ互ニ相殺スルニ因リ他人ノ權ヲ害スルヿナカル可シ○故ニ義務ヲ行フ可キ甲者義務ヲ得可キ乙者ニ金高又ハ物件ヲ渡スノ差留ヲ他人ヨリ受ケシ後乙者ヨリ義務ヲ得可キノ權ヲ得タルニ於テハ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺シテ他人ノ權ヲ害ス可カラス

第千二百九十九條　甲者乙者ニ對シテ行フ可キ義務ヲ乙者ヨリ得可キ義務ト互ニ相殺ス可キ道理アルニ之ヲ相殺スルヿナク乙者ニ對シ自己ノ義務ヲ盡クシタル時ハ甲者乙者ヨリ其義務ヲ得ルニ付キ他人ヨリ先キニ義務ヲ得可キノ權又ハ「イポテーク」ノ權ヲ述ヘ他人ノ權利ヲ害ス可カラス但シ甲者己レノ義務ヲ相殺ス可キ乙者ヨリ得ル所ノ權利アルヿヲ知ラザルノ證アル時ハ格別ナリトス

○第五款　權利ト義務ト渾同スル事

第千三百條　一人ニテ權利ト義務トヲ兼有スル時ハ其權利ト義務ト渾同シテ相殺ス可シ

第千三百一條　主タル義務ヲ行フ可キ者前條ニ記スル如ク其義務ヲ得可キ權ヲ兼有スル時ハ保證人己レノ義務ヲ免カル可シ

保證人義務ヲ得可キノ權利ヲ兼有シ又ハ義務ヲ得可キ者保證ノ義務ヲ兼有シタル時ハ主タル義務ヲシテ消散セシムルヲ得ス

連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人義務ヲ得可キノ權利ヲ兼有シタル時ハ連帶シテ

義務ヲ行フ可キ他ノ數人其一人ノ嘗テ擔當シタル部分ノミノ釋放ヲ受クルヿヲ得可シ

○第六款　引渡ス可キ物ノ滅盡スル事

第千三百二條　義務ノ目的タル確定セシ物ノ滅盡シタル時又ハ其物ヲ賣買スルヿ能ハサル模樣ニ至リシ時又ハ其物ヲ遺失シ其現存スルヤ否ヲ知ルヿ能ハサルニ至リシ時其義務ヲ行フ可キ者未タ之ヲ得可キ者ヨリ其物ヲ引渡ス可キノ求メヲ受サル中ニ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非ラスシテ此等ノ事ノ生シタルニ於テハ其義務消散ス可シ

又義務ヲ行フ可キ者之ヲ行フ可キノ求メヲ受ケシ後ト雖モ其引渡ス可キ物意外ノ事ニ因テ滅盡セシ時其責ニ任ス可キヿヲ預定セス且縱令其物ヲ義務ヲ得可キ者ニ引渡シテ其所有ト為シタルト雖モ亦滅盡ス可キ場合ニ於テハ其義務消散ス可シ

義務ヲ行フ可キ者ハ已レノ述ヘタル意外ノ事ヲ證ス可シ

竊取シタル物ハ其滅盡シ又ハ見失ヒタル事由ノ如何ナルヲ問ハス之ヲ竊取セシ者必ス其價高ヲ償フ可キノ責アリトス

第千三百三條　義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非スシテ其引渡ス可キ物ノ滅盡シ又ハ賣買ヲ為ス可カラサルニ至リシ時又ハ之ヲ遺失シタル時其物ニ付キ從來他人ニ對シ訴ヲ為ス可キノ權又ハ償ヲ得可キ權アルニ於テハ其權ヲ其義務ヲ得可キ者ニ移ス可シ

○第七款　契約ヲ廢棄スル事

第千三百四條　別段ノ法律ニ因リ契約ヲ廢棄ス可キ訴ヲ為スノ期限ヲ特ニ定メタルヿナキ時ハ十年内ニ其訴ヲ為ス可シトス

契約ヲ結フニ付キ暴行脅迫ノ事アル時ハ其暴行脅迫ノ止ミタル日ヨリ其十年ノ期限ヲ筭ヘ又錯誤及ヒ詐偽アル時ハ之ヲ知リタル日ヨリ其期限ヲ筭ヘ又婦其夫或ハ裁判所ノ允許ヲ得ルヿナク結ヒシ契約ニ付テハ其婚姻ヲ解キシ日ヨリ其期限ヲ筭フ可シ

又治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ結ヒタル契約ニ付

テハ其禁ノ免シヲ受ケシ日ヨリ其期限ヲ算ヘ幼者ノ結ヒタル契約ニ付テハ其丁年ニ至リシ日ヨリ之ヲ算フ可シ

第千三百五條　契約ノ種類ノ如何ナルヲ問ハス後見ヲ免レサル幼者ハ其契約ノ為メ損害ヲ蒙リタルニ因リ之ヲ廢棄スルヿヲ得可シ又後見ヲ免レシ幼者ハ第一篇第十卷幼年後見等ノ卷ニ定メタル如ク其權利ノ定限ニ過キタル契約ヲ結ヒ之カ為メ損害ヲ蒙リタルニ因リ其契約ヲ廢棄スルヿヲ得可シ

第千三百六條　幼者其結ヒタル契約ノ為メ損害ヲ蒙リタルト雖ヒ其損害意外ノ事ニ管シタル時ハ之カ為メ其契約ヲ廢棄ス可カラス

第千三百七條　幼者契約ヲ結ヒタル時其丁年ニ至リシ事ヲ述ヘタルノミニテハ其契約ヲ廢棄スルノ妨トナルヿナシ

第千三百八條　商業ヲ為シ又ハ為替座ヲ支配シ又ハ工作ヲ為ス幼者ハ其職業ノ為メ結ヒタル契約ヲ廢棄スルヿヲ得ス（第四百八十七條見合セ）

第千三百九條　幼者其婚姻ヲ法ニ適シタルモ

ノト為スニ許諾ヲ得ルヲ必要トスル者父母等ヲ云フノ許諾ト立會トヲ以テ結ヒタル婚姻契約書ノ條件ハ之ヲ廢棄ス可カラス

第千三百十條　幼者故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル又ハ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル時其損害ヲ償フ可キ義務ハ之ヲ廢棄ス可カラス

第千三百十一條　凡ソ人未タ丁年ニ至ラサル時結ヒタル契約書ノ體裁不當ナルニ因リ全ク其効ナキト其契約書ヲ廢棄スルノ訴ヲ為シ得可キトヽヲ問ハス其人丁年ニ至リテ更ニ之ヲ確定シタル時ハ之ヲ廢棄セントスルヿヲ得ス

第千三百十二條　幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者、婚姻ヲ結ヒタル婦其結ヒシ契約ヲ廢棄ス可キ允許ヲ受ケタル時ハ契約シタル一方ノ者ヨリ此等ノ者ニ對シ其幼年ノ時間、治産ノ禁ヲ受ケシ時間、婚姻ヲ結ヒタル時間其契約ニ因リ既ニ渡シタル物件ヲ取戻ス可キノ訴ヲ為スヿヲ得ス但シ契約シタル一方ノ者ヨリ渡

シタル物件幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者、婚姻シタル婦ノ利益トナリタル證アル時ハ格別ナリトス

第千三百十三條　丁年者ハ別段民法ニ記シタル場合ト規則トニ據ラサレハ其損害ヲ蒙リタルノミニ因リ契約ヲ廢棄ス可カラス（第八百八十七條及ヒ第千六百七十四條見合セ）

第千三百十四條　不動産ヲ他人ニ贈與シ又ハ賣拂フ事及ヒ遺物ヲ分派スル事ニ付キ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ為メ必要ナル法式ヲ用ヒテ契約ヲ為シタル上ハ此等ノ者其契約ニ付テハ既ニ丁年ニ至リシ後又ハ治産ノ禁ヲ受クル前ニ之ヲ為シタルモノト看做ス可シ。

○第六章　義務ノ證及ヒ義務ヲ盡クシタルノ證

第千三百十五條　凡ソ義務ヲ得ントスルモノハ之ヲ證ス可シ

又既ニ義務ノ釋放ヲ得タルヿヲ述フル者ハ其義務ヲ盡クシタル事又ハ義務ノ消散シタ

ル事ヲ證スル可シ

第千三百十六條　證書、證人、思料、自認、誓詞ニ管スル規則ハ左ノ數款ニ之ヲ記載ス

○第一款　證書

○第一節　公正ノ證書

第千三百十七條　公正ノ證書トハ各地方ニ於テ證書ヲ記スル可キ權アル官吏「ハテイル」等ヲ云フ必要ナル法式ヲ用ヒ記シタル證書ヲ云フ

第千三百十八條　公正ノ證書ヲ記シタル官吏之ヲ記スル可キノ權ナク又ハ其官吏之ヲ記ス

可カラサルニ因リ又ハ法式ニ背キタルニ因リ其證書ヲ公正ノモノト為ス可カラサル時其契約ヲ結ヒタル本人自己ノ姓名ヲ手署シタルニ於テハ之ヲ以テ私ノ證書ノ力アリトス

第千三百十九條　公正ノ證書ハ契約ヲ結ヒタル雙方ノ者又ハ其遺物相續人及ヒ代權人等ノ間ニ於テハ之ニ記スル所ノ契約ノ確證ナリトス可シ然ルトモ其證書ノ贋造タルヿヲ主トシテ訴フル時書類贋造ノ訴ヲ刑法裁判所ニ為ス時ハ其證書ノ

如ク執行ヲ必ス停止ス可ク又其證書ノ贋造タルヿヲ附帶ノ訟トシテ訴フル時民法ニ管シタル訴ニ添ヘテ書類ノ贋造タルヿヲ民法裁判所ニ訴出ス時ヲ云フ訴訟法第二百十八條見合セハ裁判所ニテ其時ノ摸樣ニ從ヒ假リニ其證書ノ如ク執行フヿヲ停止セシムルヲ得可シ

第千三百二十條　總テ公私ヲ問ハス證書中ニ記スル諸事ハ縱令ヒ説明ノ為メノミニ記シタル條件ト雖モ直チニ契約ノ趣意ニ管シタルモノタル時ハ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ間

ニ於テ之ヲ確證ナリトス可シ○直チニ契約ノ趣意ニ管セサル説明ノ條件ハ之ヲ證據ノ端緒ノミト為スヿヲ得可シ

第千三百二十一條　公正ノ證書ヲ取消シ又ハ變改ス可キ秘密ノ證書ハ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ間ニノミ其効ヲ生ス可ク他人ニ對シテ其効ヲ生ス可カラス

○第二節　私ノ證書

第千三百二十二條　私ノ證書ヲ記シタリトノ言掛ヲ受ケシ者之ヲ真正ナリト認メタル時

又ハ法律上ニテ真正ナリト認メタリト為シタル時ハ其證書ニ姓名ヲ手署シタル者又ハ其遺物相續人及ヒ代權人ノ間ニ於テ之ヲ公正ノ證書ニ等シキ確證ナリトス

第千三百二十三條　私ノ證書ヲ記シタルトノ言掛ヲ受ケシ者ハ其書ノ手記又ハ其姓名ノ手署ヲ認ムルヿ又ハ認メサルヿヲ明カニ申述フルヿ可シ

其遺物相續人又ハ代權人ハ本人ノ手記又ハ姓名ノ手署ヲ知ラサル旨ヲ申述フルヿヲ得可シ

第千三百二十四條　證書ヲ記シタルトノ言掛ヲ受ケシ者其書ノ手記又ハ其姓名ノ手署ヲ認メサルト述ヘ又ハ其遺物相續人及ヒ代權人之ヲ知ラサルト述フル時ハ裁判所ニテ其書ノ驗真ヲ為ス可キ旨ヲ言渡ス可シ（訴訟法第百九十三條以下見合セ）

第千三百二十五條　雙務ノ契約ヲ記シタル私ノ證書ハ各自ノ權利ヲ有スル者ノ數ニ準シ其證書ノ正本數通ヲ記シタルニ非レハ其効

ナカル可シ

同一ノ權利ヲ有シタル數人ニ付テハ一通ノ正本ヲ以テ足レリトス

正本各通ニハ之ヲ幾通ニ記シタルヤヲ附記ス可シ

然モ正本ヲ幾通ニ記シタルヤヲ附記スルヿナシト雖モ其證書中ニ記シタル契約ノ如ク自カラ執行フタル者ハ後ニ其附記ナキヲ述ヘテ其證書ヲ取消スヿヲ得ス

第千三百二十六條　一方ヨリ一方ニ金高ヲ渡シ又ハ價ヲ定メ得可キ物件ヲ渡ス可キ事ヲ約シタル證票又ハ私ノ契約書ハ之ニ姓名ヲ手署スル者其全文ヲ手記ス可シ若シ然ラサレハ自己ノ姓名ヲ手署シタル外ニ其金高又ハ價ヲ定メ得可キ物件ノ分量ヲ數字ヲ用フルヿナク亦之ヲ手記シ且「ボン」（渡シ方ヲ約スルノ意）又ハ「ブルウベル」（承諾ノ意）ノ語モ亦必ス手記ス可シ

商賈、工作者、農夫、葡萄ノ栽丁、雇夫、家僮ノ其證書ヲ記スル時ハ格別ナリトス

第千三百二十七條　證書ノ本文中ニ記スル所ノ高ト「ボン」ト記スル所ノ高ト相異ナル時ハ其「ボン」ト記スル所ヲ書セシ者ト其本文ヲ書セシ者ト同人タリト雖ヒ其二箇ノ高ノ中ニテ少キ高ヲ契約シタルト看做ス可シ但シ其二箇ノ高ノ中ニテ何レカ錯誤タルノ證アル時ハ格別ナリトス

第千三百二十八條　私ノ證書ハ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル日、之ニ姓名ヲ手署シタル一人ノ死去シタル日、財産封印ノ調書及ヒ財産目錄書ノ如キ官吏ノ記シタル公ケノ證書中ニ私ノ證書ノ趣意ヲ證明シタル日ヲ以テ他人ニ對スル其證書ノ日附ト定ム可シ

第千三百二十九條　商賈ノ簿冊ハ誓ノ事ニ付キ後條（第千三百六十七條以下見合セ）ニ記スル所ヲ除クノ外商賈ニ非サル者ニ對シ其簿冊ニ記シタル物品引渡ノ證ト為ス可カラス

第千三百三十條　又商賈ノ簿冊ニ記スル所ハ其商賈ノ損トナル可キノ證ト為スヿヲ得可シ但シ其簿冊ニ因リ權利ヲ得ントスル者ハ

其簿冊ニ記シタル諸件中ニテ已ノ義務ニ管シタル箇條ヲ除キ其權利ノミヲ得可キノ證ト為ス可カラス

第千三百三十一條　家内ノ簿冊又ハ書類ニ記スル所ハ之ヲ記シタル者ノ益トナル可キ證ト為ス可カラス左ノ二箇ノ場合ニ於テハ其者ノ損トナル可キ證ト為ス可シ

第一　其簿冊及ヒ書類ニ既ニ人ヨリ物件ヲ受取シ事ヲ明白ニ記スル時

第二　其簿冊及ヒ書類ヲ記シタル者自已ヨリ義務ヲ得可キ者ノ權利ノ證書ノ欠ケタルヲ補フ可キカ為メ其簿冊及ヒ書類中ニ自カラ其義務ヲ負フタルヿヲ記シタル旨ヲ別段附記シタル時

第千三百三十二條　義務ヲ得可キ者其所有シタル證書ノ正本ノ末尾又ハ欄外又ハ紙裏ニ義務ヲ行フ可キ者ヲシテ其義務ノ釋放ヲ得セシメタルヿヲ知リ得可キ文詞ヲ附記シタル時ハ義務ヲ得可キ者其姓名及ヒ日附ヲ手記セスト雖モ其義務ノ釋放ノ證トナス可シ

又義務ヲ得可キ者契約證書ノ副本又ハ義務ヲ得タル證書ノ副本ノ末尾又ハ欄外又ハ紙裏ニ同上ノ文詞ヲ附記シタル時義務ヲ行フ可キ者其副本ヲ所有スルニ於テハ亦前ニ記スル所ニ等シトス

○第三節　符木

品物ノ賣買ヲ為ス時両箇ノ木片ニ記號ヲ附シ其木片両箇ヲ合セ其號辭ノ相符スルヲ以テ信トヲ為シ之ヲ簿冊ニ代用スル物

第千三百三十三條　符木ノ両片互ニ符合スルモノハ平常此符木ヲ信據ト為シテ物件ヲ零

賣スル者及ヒ受取ル者ノ間ニ證ト為ス可シ

○第四節　證書ノ副本

第千三百三十四條　證書ノ正本現存スル時ハ其副本ニ記スル所ノ諸件中ニテ正本ト相符合スル事ノミヲ證ト為ス可シ但シ一方ノ者ハ他ノ一方ノ者ニ其正本ヲ檢視セシメ要ムルヿヲ得可シ

第千三百三十五條　證書ノ正本既ニ現存セサル時ハ其副本ヲ以テ證ト為スニ付キ左ノ規則ニ循フ可シ

第一　最初正本ヨリ寫シタル副本又ハ契約ノ如ク執行ヲ可キヿヲ附記シタル副本（第千二百八十三條見合セ）ハ正本ニ等シク證ト為ス可シ又其他ノ副本ト雖モ契約ヲ結ヒシ雙方ノ者ノ面前又ハ一方ノ者ヲ呼出シテ猶出席セサル上ニテ裁判役ノ命ニ因リ之ヲ記シタル時又ハ雙方ノ者ノ面前ニテ其承諾ノ上之ヲ記シタル時ハ亦正本ニ等シク之ヲ證ト為ス可シ

第二　「ノテイル」ノ最初ニ寫シタル副本ヲ渡シタル後嘗テ其正本ヲ記セシ「ノテイル」又ハ之ニ代リ任ヲ得タル「ノテイル」又ハ其他其正本ヲ預カル官吏別段裁判役ノ命ナク又契約ヲ結ヒシ雙方ノ者ノ承諾ナク其正本ヨリ寫シタル副本ハ其經舊ノモノタル時其失ヒタル正本ニ等シク之ヲ證トシテ用フルヿヲ得可シ

其副本ヲ記シタル日ヨリ三十年以上ノ時間ヲ經タル時ハ之ヲ經舊ノモノト為ス可シ

若シ其副本ヲ記シタルヨリ三十年ニ滿タサル時ハ之ヲ證據ノ端緒ノミニ用フ可シ

第三　若シ同上ノ副本嘗テ其正本ヲ記セシ「ノテイル」又ハ之ニ代リ任ヲ得タル「ノテイル」又ハ其正本ヲ預カル官吏ノ記シタルモノニ非サル時ハ其副本如何ニ經舊ノモノト雖ヒ之ヲ證據ノ端緒ノミニ用フ可シ

第四　副本ヨリ寫シタル副本ハ其時ノ摸

様ニ從ヒ參考ノ為メ之ヲ用フルヿヲ得可シ

第千三百三十六條　證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル時ハ其簿冊ニ記スル所ヲ以テ證據ノ端緒ノミト為ス可ク且是カ為メニモ左ノ二件ノ備ハリタル「ヲ必要トス

第一　嘗テ其證書ノ正本ヲ記シタル一年内ニ「ノテイル」ノ記シタル諸般ノ證書ノ正本ヲ盡ク失ヒタル「ノ」分明ナル事又ハ意料外ノ事ニ因リ特ニ其一箇ノ證書

ノ正本ヲ失ヒタルノ證アル事

第二　其證書ノ正本ヲ記セレ「ノテイル」ノ目録（一年中其記スル所ノ諸般ノ證書ノ大意ヲ番號ヲ立テ記列スル書）アリテ其目録ニ因リ其證書ノ正本ヲ記シタル日附ハ本人ノ述フル所ノ日附ト相違セサルノ證ヲ知リ得可キ事

此二箇ノ模様ノ共ニ備ハリタルニ因リ官署ノ簿冊ニ登記シタル所ヲ以テ證據ノ端緒ト為ス可キ時嘗テ其證書ノ正本ヲ記セン時ノ證人猶生存スルニ於テハ

之ヲ呼出シテ其申述ヲ聽聞スル「ヲ必要トス

○第五節　義務ヲ認ムルノ書及ヒ義務ヲ確的ニ為スノ書

第千三百三十七條　義務ヲ認ムルノ書アリト雖ヒ其義務ノ證書ノ正本ヲ出サヽル「ノ得ス但シ義務ヲ認ムル書ニ其義務ノ證書ノ文詞ヲ全ク記入シタル時ハ格別ナリトス

義務ヲ認ムルノ書ニ義務ノ證書ノ正本ニ記スル所ノ外更ニ餘事ヲ記シ又ハ其正本ト異

ナリシ事ヲ記シタルト雖ヒ此等ノ事ハ其効ナシトス

然ヒ義務ヲ認ムル書ノ互ニ符合シタルモノ數通アリテ義務ヲ得可キ者既ニ其書ニ從ヒ義務ノ一部ノ執行ヲ得且其中ノ一通ヲ記シタルヨリ三十年以上ノ時間ヲ經タル時ハ其義務ヲ得可キ者其義務ノ證書ノ正本ヲ出スニ及ハサルノ允許ヲ受クルヿヲ得可シ

第千三百三十八條　法律上ニテ廢棄セントスル訴ヲ為シ得可キ義務ヲ確的ニ為スノ書ハ

其義務ノ要領及ヒ之ヲ廢棄セントスル訴ノ生スル原由ト其原由タル條件ヲ更改ス可キノ意トヲ記載シタルニ非サレハ其効ナカル可シ

又義務ヲ確的ニ為スノ書ナシト雖ヒ法ニ適シテ義務ヲ確的ニ為スヲ得可キ期限ノ後ニ至リ（幼年ノ者丁年ニ至リシ等ヲ云フ）其義務ヲ行フ可キ者ノ隨意ニテ其義務ヲ行フタル時ハ其義務ヲ確的ニ為シタルノ證アリトス

法律上ニ定メタル法式ト期限トニ循ヒ義務

ヲ確的ニ為シタル時又ハ義務ヲ行フ可キ者ノ隨意ニテ其義務ヲ行フタル時ハ其義務ノ證書ヲ取消サント訴フルノ權ヲ抛棄シタルト看做ス可シ但シ此規則ヲ以テ其契約ニ管ヒサル者ノ權利ヲ害スルヿナカル可シ

第千三百三十九條　生存中ノ贈遺ノ證書ニ法式ニ背キタル事アル時ハ之ヲ確的ニ為ス可キ書ヲ記スルトハ雖ヒ其證書ノ効ヲ生セシムルヿヲ得ス必ス法律上ニ定メタル法式ヲ用ヒ更ニ改メテ贈遺ノ證書ヲ記スルヿヲ必要トス

第千三百四十條　生存中ノ贈遺ヲ為シタル者ノ遺物相續人及ヒ代權人其贈遺ヲ為シタル者ノ死去ノ後其贈遺ノ證書ヲ確的ニ為シタル時又ハ自己ノ隨意ニテ其贈遺ノ如ク執行フタル時ハ其贈遺ノ證書ノ法式ニ背キタルヿヲ述ヘ又ハ其他ノ事故ヲ申述ヘテ其證書ヲ取消サント訴フルノ權ヲ抛棄シタリト看做ス可シ

○第二款　證人

第千三百四十一條　人ノ隨意ニテ預ケタル物ト雖モ百五十「フラング」以上ノ金高及ヒ物件ニ付テハ證人ヲ以テ證ヲ立ツ可カラス「ノテイル」ノ面前ニテ記シタル證書（公正ノ證書ヲ云フ）又ハ姓名ヲ手署シタル私ノ證書アル「ヲ必要トス又百五十「フラング」以下ノ金高及ヒ物件ニ管シタル時ト雖モ其證書アルニ於テハ之ニ記シタル所ト異ナリシ事又ハ之ニ記シタル所ヨリ更ニ餘分ノ事ハ證人ヲ以テ證ス可カラス又其證書ヲ記スル前、其證書ヲ記スル時、其證書ヲ記セシ後ニ言說シタルト云フ所ノ事モ亦證人ヲ以テ證ス可カラス

但シ此規則ヲ以テ商法ニ定ムル所ノ規則ヲ害スル「ナカル可シ

第千三百四十二條　元金ト其息銀トヲ求ムルノ訴ヲ為ス時其息銀ト元金トヲ合算シテ百五十「フラング」ノ高ニ過クルニ於テハ亦前條ノ如クタル可シ

第千三百四十三條　百五十「フラング」以上ノ高ヲ得ント訴ヘタル者ハ後ニ其訴フル所ノ高

ヲ減スルト雖モ證人ヲ以テ其證ヲ立ツルヿヲ得ス

第千三百四十四條　百五十「フラン」以下ノ高ヲ得ントト訴フル時ト雖モ其高ハ別段證書ヲ以テ證ヲ立テサル百五十「フラン」以上ノ高ノ殘リ高タルヿ又ハ其一部タルヿノ言渡アルニ於テハ證人ヲ以テ其證ヲ立ルヿヲ得ス

第千三百四十五條　證書ノ備ハラサル數箇ノ金高又ハ物件ヲ得ントト訴フル者アル時其數箇ノ金高又ハ物件ヲ合算シテ百五十「フラン」以上ニ至ルニ於テハ縱令ヒ其數箇ノ金高又ハ物件ヲ求ムルノ權各相異ナリタル原由ニ出テ且其權ノ生レタル時日互ニ異ナリタルヿヲ述フルト雖モ證人ヲ以テ其證ヲ立ルヿヲ得ス但シ其數箇ノ金高又ハ物件ヲ求ムルノ權ヲ遺物相續又ハ贈遺又ハ其他ノ方法ニテ數人ヨリ讓リ受ケタル時ハ格別ナリトス

第千三百四十六條　證書ヲ以テ證ヲ立テサル數箇ノ條件ニ付テノ訴ハ其條件ノ名義如何

ナルヲ問ハス一通ノ訴狀ヲ以テ之ヲ為ス可シ但シ其訴狀ヲ相手方ニ送リタル後ハ證書ヲ以テ證ヲ立テサル其他ノ條件ノ訴ヲ為スト雖モ裁判所ニテ之ヲ許サス

第千三百四十七條　證據ノ端緒アル時ハ前數條ニ記シタル規則ト異ナリトス

被告人又ハ其名代人ノ記シタル書面アリテ原告人ノ訴フル所正實ナル可シト思料スルヲ得可キ時ハ證據ノ端緒アリトス

第千三百四十八條　義務ヲ得可キ者已ノ契約

シタル義務ノ證書ヲ得ル「能ハサルノ情實アリシ時ハ亦前數條ニ記スル所ノ規則ト異ナリトス「證人ヲ以テ證ヲ立ル「ヲ得可キヲ云フ

此事ハ左ノ四件ニ通シテ用フ可シ

第一　「ガジョントラ」（別ニ契約ヲ結フ事為シタル事ヲ云フ）ナク人ノ随意ニテ約束ヲ此篇第四卷ニ詳ナリ又ハ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所行或ハ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル所行ヨリ生シタル義務アル時

第二　火災、崩潰、騷亂、破船等ノ場合ニ於テ

止ムヲ得ス人ニ物ヲ預ケタル時又ハ旅舍ニ宿シタル旅客其物件ヲ預ケタル時

但シ此等ノ事ハ其人ノ模樣ト其時ノ景狀トニ從テ定ムル可シ

第三　證書ヲ記シ能ハサル意外ノ事ニ因リ契約シタル義務ヲ得可キ時

第四　義務ヲ得可キ者抗拒ス可カラサル意外ノ事ニ因リ其證書ヲ失ヒタル時

○第三款　思料ノ事

第千三百四十九條　思料トハ法律上ニ定ムル所ニ因リ又ハ裁判役ノ判斷ニ因リ知リ得タル事ヨリ知リ得サル事ニ推シ及シテ思料スルヿヲ云フ

○第一節　法律上ニ定メタル思料ノ事

第千三百五十條　法律上ニ定メタル思料トハ別段設ケタル法ニ因リ或ル證書又ハ或ル所為ニ付キ思料ヲ為ス事ヲ云フ但シ其證書及ヒ所為ハ左ニ記スル所ノモノナリトス

第一　證書ノ旨趣ニ因リ法律ニ背キタル

コヲ思料シ其効ナキ旨ヲ法律上ニ定ム
ル證書

第二　法律上ニ定メタル景況アル、ニ因リ
物件所有ノ權アル事又ハ義務ノ釋放ヲ
得タルコヲ別段法律上ニ定ムル場合

第三　既ニ終審ノ裁判ヲ經タル事ノ力

第四　一方ノ者ノ自認又ハ其誓詞ノ力

第千三百五十一條　既ニ終審ノ裁判ヲ經タル
事ノ力ハ其裁判ノ旨趣タル事ノミニ付キ備
ハリタルモノトス但シ此カ為メニハ一方ノ

者ノ訴フル所ノ事既ニ終審ノ裁判ヲ經タル
事ト同一ニシテ其訴ヲ為スノ原由及ビ其訴
ヲ為ス者モ亦以前ニ均シク且其原告ハ以前
ノ原告ニシテ其被告ハ以前ノ被告タルコヲ
必要トス

第千三百五十二條　法律上ニテ權利ヲ有スル
ノ思料ヲ受クル者ハ其權利ノ證ヲ立ルニ及
ハス

法律上ノ思料ニ因リ證書ノ効ナキ事又ハ訴
訟ヲ為スヲ許サヽル事ヲ法律上ニ定メタル

時ハ其思料ニ反シタル證ヲ立ルヿヲ許サス但シ其思料ニ反シタル證ヲ立ルヿヲ得可キ旨ヲ別段法律上ニ定メタル時ハ格別ナリトス又誓詞又ハ自認ニ付テノ規則ハ亦例外ナリトス

○第二節　法律上ニ定メタル思料ノ事

第千三百五十三條　法律上ニ定メサル思料トハ裁判役ノ知識ト思慮トニ因リ為ス所ヲ云フ但シ裁判役ハ重故アリテ詳明符合シタル思料ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス又證人ヲ以テ證ヲ立ルヿヲ法律上ニ許シタル場合ニ非サレハ其思料ヲ為ス可カラス尤モ詐偽ヲ原由ト為シテ證書ヲ取消サントト訴フル時ハ格別ナリトス

○第四款　一方ノ者ノ自認

第千三百五十四條　一方ノ者ノ自認ハ裁判所外ニテ為スモノアリ又ハ裁判所ニ於テ為スモノアリ

第千三百五十五條　一方ノ者裁判所外ニテ言

詞ノミヲ以テ自認ヲ為シタルヿヲ相手方ヨリ述フルト雖モ證人ヲ以テ證ヲ立ルヿヲ許サヽル訴ニ付テハ其効ナカル可シ

第千三百五十六條　裁判所ニ於テ為シタル自認トハ一方本人又ハ其本人ヨリ特ニ證書ヲ以テ任シタル名代人裁判所ニ於テ述フル所ヲ云フ

其自認ヲ為シタル者ニ對シテハ之ヲ以テ確證ナリトス

一方ノ者其義務ノ一部ヲ行ヒ他ノ一部ヲ行ハサル旨ヲ自認シタル時ハ相手方ノ者其義務ノ一部ヲ得タルハ霊ニシテ他ノ一部ヲ得サルハ實ナルヿヲ述フ可カラス

又一方ノ者自認シタル所ハ事實ノ錯誤ニ因リ之ヲ為シタルノ證アルニ非サレハ之ヲ取消ス可カラス○法律上ノ錯誤ヲ以テ口實ト為シ自認ヲ取消スヿヲ得ス

○第五款　誓ノ事

第千三百五十七條　裁判所ニ於テ為ス所ノ誓ハ二様ナリトス

第一　誓ニ據テ訴訟ノ審判ヲ為サシムル
為メ一方ノ者ヨリ相手方ニ求メタル誓
但シ此誓ヲタダ名ケテ訴訟審判ノ誓ト云フ
シタル誓

第二　裁判役其職務ニ因リ一方ノ者ニ命

○第一節　訴訟審判ノ誓

第千三百五十八條　訴訟審判ノ誓ハ何レノ訴
訟ニ付テモ之ヲ為ス可キノ求メヲ為スヿヲ
得可シ

第千三百五十九條　相手方ノ一身ニ管シタル
事ニ非サレハ一方ヨリ誓ヲ為ス可キヿヲ求
ムルヲ得ス

第千三百六十條　訴訟ヲ為スニ付テノ證據ノ
端緒又ハ訴訟ヲ拒ムニ付テノ證據ノ端緒ナ
キ時ト雖ヒ訴訟ヲ為ス間何レノ時ヲ問ハス誓
ヲ為ス可キヿヲ求ムルヲ得可シ

第千三百六十一條　誓ヲ為ス可キノ求メヲ受
ケシ者其誓ヲ為スヿヲ肯セサル時又ハ其求
メヲ為シタル者ニ誓ヲ反シ求メサル時ハ其
訴訟ヲ為スノ權又ハ訴訟ヲ拒ムノ權ヲ失フ

可シ又誓ヲ為ス可キノ求メヲ為シタル者其相手方ヨリ誓ヲ反シ為ス可キノ求ヲ受ケ之ヲ肯セサル時ハ亦此等ノ權ヲ失フ可シ

第千三百六十二條　誓ヲ為スノ旨趣雙方ノ者ニ管レタル事ニ非ラスシテ唯其誓ヲ為ス可キ求メヲ受ケシ者ノ一身ノミニ管シタル時ハ其者ヨリ其求メヲ為シタル者ニ誓ヲ反シ求ムルヿヲ得ス

第千三百六十三條　一方ノ者相手方ヨリ誓ヲ為ス可キノ求メヲ受ケ之ヲ為シタル時又ハ誓ヲ反シ為ス可キノ求メヲ受ケ之ヲ為シタル者其誓ノ偽タルヿヲ述フルヿヲ得ス

第千三百六十四條　一方ノ者相手方ニ誓ヲ為ス可キ求メヲ為シ又ハ誓ヲ反シ為ス可キ求メヲ為シタル時相手方其求メヲ承諾シタルニ於テハ一方ノ者翻辭ヲ為スヿヲ得ス

第千三百六十五條　誓ハ之ヲ為ス可キヿヲ求メタル本人又ハ其遺物相續人及ヒ代權人ノミノ利益或ハ損害トナルノ證トス可シ

連帶シテ義務ヲ得可キ者ノ中一人義務ヲ行フ可キ者ニ對シ誓ヲ為ス可キノ求メヲ為シ其義務ヲ行フ可キ者誓ヲ為シタル時ハ義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ノ中其一人ノ部分ノミニ付キ其釋放ヲ得可シ

主タル義務ヲ行フ可キ者ニ對シ誓ヲ為ス可キノ求メヲ為シ其者其誓ヲ為シタル時ハ其保證人モ亦其釋放ヲ得可シ

連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ニ對シ誓ヲ為ス可キノ求メヲ為シ其一人其誓ヲ為シタル時ハ義務ヲ行フ可キ他ノ數人ノ利益トナル可シ

保證人ニ對シ誓ヲ為ス可キノ求メヲ為シ保證人其誓ヲ為シタル時ハ主タル義務ヲ行フ可キ者ノ利益トナル可シ

此條第四項第五項ノ場合ニ於テ連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人及ヒ保證人連帶又ヒ保證ノ事ニ付キ誓ヲ為ス可キノ求メヲ受ケ義務ノ事ニ付キ其求メヲ受ケサル時ハ其誓ヲ以テ義務ヲ行フ可キ他ノ數人及ヒ主

タル義務ヲ行フ可キ者ノ為メ利益ヲ生ス可カラス

○第二節　裁判役其職務ニ因リ命シタル誓

第千三百六十六條　裁判役ハ訴訟ノ判決ヲ為スニ付テノ一證トシテ一方ノ者ニ誓ヲ為スヿヲ命シ又ハ償還ノ高ヲ定ムヿ可キカ為メ一方ノ者ニ誓ヲ為スヿヲ命スルヿヲ得可シ

第千三百六十七條　裁判役左ノ二箇ノ場合ニ非レハ訴訟又ハ其抵拒ニ付キ己レノ職務ヲ以

テ誓ヲ為ス可キヿヲ命スルヿヲ得ス

第一　訴訟又ハ其抵拒ノ證全ク備リタルニ非サル時

第二　訴訟又ハ其抵拒ノ證全ク備ハラサルニ非サル時

此二箇ノ場合ノ外ハ裁判役誓ヲ命スルヿナク其訴訟又ハ其抵拒ノ申立ヲ全ク取上ケ又ハ取上ケサル可シ

第千三百六十八條　裁判役其職務ニ因リ一方ノ者ニ誓ヲ為ス可キヿヲ命シタル時ハ其者

相手方ニ對シ誓ヲ反シ求ムルヲ得ス

第千三百六十九條　一方ノ者已ニ得ント訴ヘタル物件ノ價ニ付キ誓ニ非サル方法ヲ用ヒ證ヲ立ルヿ能ハサル時ノ外裁判役其者ニ對シ誓ヲ為ス可キヿヲ命スルヲ得ス

又此場合ニ於テ裁判役ハ幾許ノ高ニ至ル迄訴人ノ誓ヲ以テ信據ト為ス可キヤヲ定ム可シ

○第四卷　契約ナクシテ生スル義務（千八百四十年第二月九日決定同月十九日布告

第千三百七十條　義務ノ中ニ之ヲ行フ可キ者モ之ヲ得可キ者モ契約ヲ為スヿナクシテ生ズルヿアリ

此義務ハ法律上ニテ生スルモノアリ又ハ一方ノ者ノ所為ニ因リ生スルモノアリ

法律上ニテ生シタル義務トハ相隣シタル土地ノ所有者ノ間ノ義務又ハ後見人又ハ支配

人等總テ己ノ任セラレタル職務ヲ行ハサルヲ得サル者ノ義務ノ如ク人ノ意ニ因ラスシテ生シタル義務ヲ云フ

一方ノ者ノ所為ニ因リ生スル所ノ義務ハ「カジコントラー」ヨリ生シ又ハ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所為或ハ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル所為ヨリシテ生ス但シ此類ノ義務ハ此卷ニ之ヲ説明ス

○第一章　「カジコントラー」

第千三百七十一條　「カジコントラー」トハ人ノ

隨意ニテ行フタル所為ニ因リ他人ニ對シテ義務ヲ生シ又時トシテハ其所為ニ因リ雙方ノ間ニ互ニ義務ヲ生スル事ヲ云フ

第千三百七十二條　人自己ノ隨意ヲ以テ他人ノ事務ヲ管理スル時ハ他人其管理ノ事ヲ知ルヲサルトヲ問ハス其管理ヲ為ス者其為シ始メタル管理ヲ繼續シテ為シ他人自カラ其事務ノ管理ヲ為スヲ得可キニ至ル迄其管理ヲ成就スルノ手續ヲ為ス可キ黙許ノ義務ヲ負フタリトス又其管理ヲ為ス者ハ其管

理スル事務ニ附帶シタル諸事ヲモ引受ケサルヲ得ス

此管理ヲ為ス者ハ其本人ヨリ別段名代ノ證書ヲ受ケタルニ等シキ義務ヲ行フ可シ

第千三百七十三條　若シ本人其管理ノ事務ノ終成スル前ニ死去スルヿアリト雖モ管理ヲ為ス者ハ其死者ノ遺物相續人管理ヲ為スヿヲ得可キニ至ル迄其管理ヲ繼續シテ行ハサルヲ得ス

第千三百七十四條　管理ヲ為ス者ハ之ヲ為スニ付キ極メテ懇切ニ注意スルヿヲ必要トス然モ其事務ノ管理ヲ為シ始メタル時ノ情實ニ因リ裁判役管理ヲ為ス者ノ過失又ハ懈怠ノ償ヲ減少スルノ言渡ヲ為スヿヲ得可シ

第千三百七十五條　自己ノ隨意ニテ他人ノ事務ヲ管理スル者適宜ニ之ヲ為シタル時ハ其者本人ノ名前ニテ人ト契約シタル義務ハ本人ヨリ盡クス可シ又其管理ヲ為シタル者其管理ノ為メ自己ニ擔當シテ盡クシタル義務ハ本人ヨリ之ヲ其者ニ償ヒ且其者ノ為シタ

ル有益ノ費用又ハ己ムヿヲ得サル費用モ亦本人ヨリ之ヲ其者ニ償フ可シ

第千三百七十六條　錯誤ニ因リ又ハ故意ヲ以テ己レノ得可カラサル物ヲ受取リタル者ハ其物ヲ返シタル者ニ之ヲ還ス可シ

第千三百七十七條　錯誤ニ因リ自カラ義務ヲ行フ可シト思ヒ其義務ヲ盡クシタル時ハ其義務ヲ得タル者ニ對シ取戻ヲ訴フルノ權アリ

然ルニ其義務ヲ得タル者之ヲ得タルニ因リ其證書ヲ破棄シタル後ハ誤テ義務ヲ盡クシタル者其義務ヲ得タル者ニ對シ取戻ヲ訴フルノ權ナク唯當然其義務ヲ行フ可キ者ニ對シテ其償ヲ得ントヿヲ訴フルヿヲ得可シ

第千三百七十八條　若シ前條ノ場合ニ於テ義務ヲ得タル者不正ノ事アル時ハ其者其得タル義務ノ元高ト之ヲ得タル日ヨリ以來ノ利分トヲ還ス可シ

第千三百七十九條　不當ニ有體ノ不動産又ハ動産ヲ受取リタル者ハ其不動産又ハ動産ノ

現存スルニ於テハ其品物ノ儘之ヲ還ス可ク又其者ノ過失ニ因リ其不動産又ハ動産ヲ減シ盡サシメ或ハ卑惡ニ至ラシメタルニ於テハ其價ヲ還ス可シ但シ之ヲ受取ルニ付キ不正ノ處置ヲ為シタル時ハ縱令ヒ意外ノ事ニ因リ其物ヲ失フタリト雖モ其者其責ヲ免ルヽヿヲ得ス

第千三百八十條　不正ノ意ニ非スシテ錯テ物件ヲ收受シタル者其收受セシ物ヲ賣拂フタル時ハ其賣拂ニ因リ得タル所ノ價高ノヿヲ還與ス可シ

第千三百八十一條　自己ノ所有物ノ返還ヲ得タル者ハ縱令ヒ不正ニ其物ヲ所得ト為シタル者ニ對スルト雖モ其者之ヲ保全ス可キタメ為シタル所ノ己ムヲ得サル費用及ヒ有益ノ費用ヲ盡ク償フ可シ

○第二章　故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所行及ヒ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル所行

第千三百八十二條　何事ニ因ラス人ニ損害ヲ

加フル所行ヲ為シタル時ハ其償ヲ為ス可シ

第千三百八十三條　如何ナル人ト雖モ自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可キノ義務アルノミニ非ス自己ノ懈怠又ハ疎失ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

第千三百八十四條　自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可キノ義務アルノミニ非ラス自己ノ引受ク可キ者又ハ自己ノ管守スル物獣類等ノ所為ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

故ニ父又父ノ死去シタル後ハ母ヨリ其同居ノ幼年ノ子ノ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

家長及ヒ人ヲ使用スル者ハ其僕婢及ヒ使用ヲ受クル者ノ其任ヲ受ケタル事ニ付キ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

授業師及ヒ工作者ハ其受業者及ヒ工作ヲ學フ者己レノ管照ヲ受クル時間ニ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

父及ヒ母又ハ授業師及ヒ工作者ハ其子又ハ

弟子ノ人ニ損害ヲ加ヘシ所行ヲ防制スルヿ能ハサルノ證ヲ立ルニ非レハ上ニ記スル所ノ如ク其償ヲ為ス可キノ責ヲ免ルヽヲ得ス

第千三百八十五條　獸類ノ所有者又ハ獸類ヲ用フル者ハ之ヲ用フル時間ニ其獸類ヲ管守シタルト其徘徊逃逸シタルトヲ問ハス其獸類ノ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

第千三百八十六條　家屋ノ所有者ハ之ヲ修理スルヿヲ怠リタルニ因リ又ハ之ヲ建造スル法ノ不當ナルニ因リ其家屋ノ崩潰シテ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

辻士華筆受

佛蘭西法律書 民法第九 終

法律書 民法九

文部省